

公益社団法人日本武術太極拳連盟

ジュニア国際競技大会派遣選手選考の規程と基準

強化合宿対象者の基準

2024年(令和6年)3月

■派遣選手選考基準の要点

1. 複数の機会を経て決定する
 - ① 年齢区分による套路に必要な、能力と実力を計る
 - ② 難度動作の習得可能者を発掘し、シニア選手養成に繋げる
 - ③ ジュニア選手の演技は安定的でないため、日程が可能な限り選考会を実施し JOC ジュニアオリンピックカップ大会の成績を選抜の参考にする
 - ④ 国際大会の開催日程に合わせて JOC ジュニアオリンピックカップ大会後の日程を予め設定、公表の上で選考会を実施する

2. 公平公正に行うため数字を判定の基準にする
 - ① 国際競技会派遣選手選考規程に従って公表して実行する
 - ② 日本代表選手団選定委員会に選考の過程と結果を説明し、承認を得て最終決定が行われる
 - ③ 選考に関する不服申し立てや不選考の理由を選手本人から求められた場合は、これを受理し説明を行う義務を果たす

3. 選考のシステムを設ける
 - ① 国際大会の開催日程に合わせて JOC ジュニアオリンピックカップ大会後の日程を予め設定し公表する
 - ② JOC ジュニアオリンピックカップ大会の成績結果から、選考会参加対象者を決定する
 - ③ 選考の基準に従って派遣選手の選考を行う
 - ④ 国際的な競技力を測るため、強化委員会委員長、ヘッドコーチ、審判委員会が演技レベルの順位付けを行い、採点ルールとは別の得点制を設けて成績順位の決定に寄与する
 - ⑤ 選考会の実施を原則とするが、国際大会開催日程によっては不可能な場合がある
 - ⑥ その場合は JOC ジュニアオリンピックカップ大会の成績結果を強化委員会が検討、あるいは強化指定選手の中から推薦を行って派遣選手を決定する

4. 連盟の経済的負担を軽減する
 - ① 選手側も経費負担を行う
 - ② 選考会の参加は対象者を決定した後、オープン(希望参加制)にし、全員から一律の参加費を徴収する
 - ③ オープン参加時の移動、宿泊等は各自手配とする

■選考会対象者の決定

1. JOC ジュニアオリンピックカップ大会の成績結果から、A区分(太極拳3種、長拳5種、南拳3種)、B区分(太極拳2種、長拳5種、南拳3種)、C区分(太極拳1種、長拳5種)の各種目男女それぞれの1位
2. 対象者の人数が、代表として派遣する人数の倍近くに満たない場合は対象者を増やす事ができる
3. 出場人数の多い種目から順に次点成績の選手を選び、派遣人数の倍以内まで加える
4. ただし長拳短器械、長拳長器械では5位以内の成績から次点を選出、6位以下は対象外
5. なおかつ選考会に参加を希望する者を対象者とする
6. 選考会の日程、実施内容は予め公表しておく

■派遣選手選考の基準

1. 国際大会の開催日程に合わせて JOC ジュニアオリンピックカップ大会後の日程を予め設定し、参加対象者を決定して選考会を実施(参加費を徴収しオープン参加)
 - ① 競技形式で行う
 - ② 全套の演技を採点する
 - ③ 競技が実施される種目、または太極拳2種目、長拳・南拳は3種目
 - ④ A組(規格減点)、および第三套路はC組(難度+連接加点)の採点を各3人以上で最新の国際ルール(2024年は「2019年版」)を運用、手作業の場合は過半数の認定によって加減点

B組は「演技レベルの順位付け」を行い、順位による得点制とする

A区分

1位 3.0点 2位 2.9点 3位 2.8点 4位 2.7点 5位 2.6点 以下同様

B・C区分

1位 5.0点 2位 4.9点 3位 4.8点 4位 4.7点 5位 4.6点 以下同様

- ⑤ 選手強化委員会委員長、ヘッドコーチに演技レベルの順位付けを依頼し、国際競技レベル、世界情勢に合わせた順位を判定、得点の平均点を割り出して、B組(演技レベル加点)の得点とする
- ⑥ 審判委員会から1名以上の採点協力を依頼
- ⑦ 他の採点は審判資格を所持する強化コーチに依頼
- ⑧ AB組、および第三套路はC組を含んだ合計点による得点順位で、各種目男女それぞれの上位者2名以内(レベルにより増減)を日本代表候補とする

2. 派遣する種目、人数は国際的な競技力を勘案し、選手強化委員会が総合的に判断し決定する。開催する地域、国等によっては、C区分の派遣を見送ることがある
3. 選考会において、上記1. ⑧、2. および JOC ジュニアオリンピックカップ大会の成績を総合的に判断し、日本代表を決定する

■強化合宿の参加基準

1. スケジュール

- ① 年度の初めに強化合宿の実施日程(予定)を公表する
- ② 強化委員会はA区分、B区分の各種目男女の参加人数枠を定める
- ③ C区分は参加対象としない
- ④ 合宿の2ヵ月前に参加対象者を決定し通知

2. 選考のシステムを設ける

- ① 強化合宿にはジュニア強化指定選手が参加できる
- ② 東西の強化委員会はそれぞれの強化指定選手の中から、現在の實力、訓練参加状況、怪我や病気の程度、内部テスト実施の場合はその結果等を勘案し、人数枠内で強化合宿の参加対象者を推薦する
- ③ 12月下旬に実施の場合、10月下旬までに参加対象者を推薦
- ④ 強化合宿の全体経費を削減するように委員会で図る
- ⑤ 東西強化委員会から推薦された選手の強化合宿参加費は、従来通り連盟負担あるいは一部、または事情により全額選手負担も検討する

3. 内部テストを実施する場合の参考基準(例)

- ・各種目男女ごとに、難度動作のA組(規格減点)判定、C組(難度+連接加点)難度の完成度、による順位付けを行う

A区分: 長拳 ①312A+335A+323A+4 ②324A+7 ③333A+6
 (第三套路) 南拳 ①323B(45°)+2 ②324B(45°)+1
 太極拳 ①312A+324B+5 ②323B+8 ③212A ④143B

B区分: 長拳 ①324+拍地 ②323+1 ③333+6 ④312+335
 (課題) 南拳 ①323+2 ②324+1 ③423
 太極拳 ①312+8 ②3S23+8 ③212

※上記は将来を見据えて、より高難度の動作を実施する場合の一例

以上